

報 道 各 位

新潟市教育委員会事務局学校支援課

令和 7 年度全国学力・学習状況調査新潟市結果について

標題の件につきまして、下記のとおり令和 7 年度の結果を公表いたします。

記

新潟市の結果の概要

- 1 平均正答率・IRT スコア （別紙 1）
- 2 児童生徒質問への回答及び、教科とのクロス集計において特徴的な結果を示している項目について（別紙 2）
 - （1）ICT 機器の活用率の高さと学力との関係
 - （2）探究の過程で取り組む総合的な学習の時間の充実と学力の関係
 - （3）学校以外で勉強をする時間の減少と学力との関係

【問い合わせ先】

新潟市教育委員会事務局
学校支援課長 内藤 浩悟
TEL 025 - 226 - 3254

※本件に関するお問い合わせは、午後 7 時までをお願いします。

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査 新潟市の結果（速報）

1 平均正答率・IRT平均スコア

学年	教 科	新潟市 平均正答率	全国や県の平均正答率 (県：新潟市を含む)	
小 学 校 6 年	国語	68	全国(公立)	66.8
			県	66
	算数	57	全国(公立)	58.0
			県	56
	理科	56	全国(公立)	57.1
			県	55
中 学 校 3 年	国語	55	全国(公立)	54.3
			県	54
	数学	47	全国(公立)	48.3
			県	46
	中学校理科は 4 月14日～17日の間に初めてCBT（オンライン）で実施されました。問題が個人ごとに異なるため、これまでの正答率に代えて、IRT（問題の難易度を考慮して受験者の能力を評価する理論のこと）が採用されています。			
	理科	507	全国(公立)	503
			県	498

◆この調査は令和 7 年 4 月 1 7 日に新潟市内の全小学校の 6 年生と中学校及び高志中等教育学校前期課程の年 3 生を対象に、国語、算数・数学、理科の 3 教科について行われました。
調査問題は、今年度も令和 6 年度と同じく、知識と活用を一体的に問う内容です。

◆平均正答率について
小学校国語では全国・県の正答率を若干上回りました。小学校算数、中学校数学では全国
の正答率をやや下回りました。なお、県の平均正答率は新潟市を含むとともに整数値の公表のた
め、参考値となります。

◆結果の公表について
本年度 6 月、文部科学省から結果公表・提供に係る課題として、全国との平均正答率の差や
順位のみが独り歩きしていること等を上げ、これまでの結果公表の在り方を改善し、8 月以降
（秋）に調査結果の多面的な解釈を可能とする分析を都道府県・指定都市に情報提供するとし
ています。新潟市では、現時点で提供された本市の児童生徒の正答率、質問調査への回答状況
を活用しながら、本市の実態を把握するとともに、国から 8 月以降に提供される資料を基に本
市の取組の成果と課題を総合的に分析、評価していきます。これらを通して、児童生徒の学習
改善や学習意欲の向上につなげていくことを目指します。

2 新潟市の児童生徒質問への回答及び、教科とのクロス集計において特徴的な結果を示している項目について

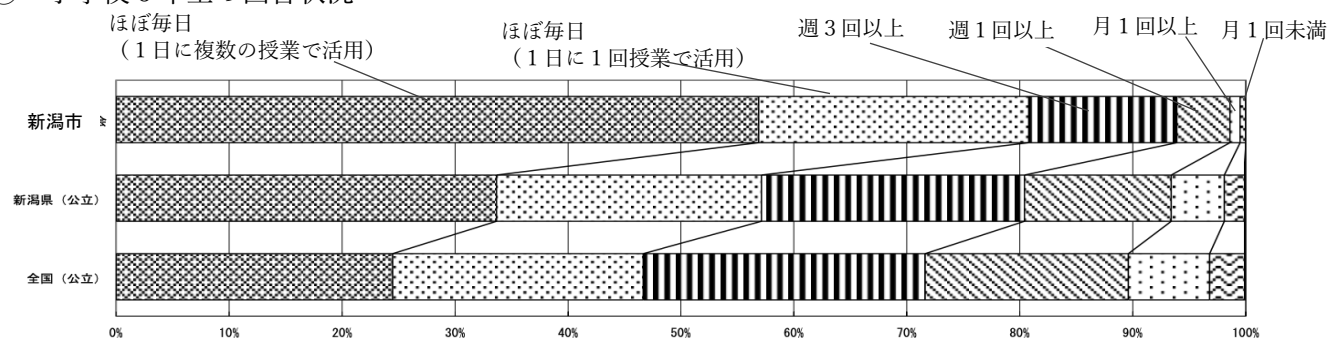
(1) 「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」への回答状況

① 「ほぼ毎日」と回答した児童の割合

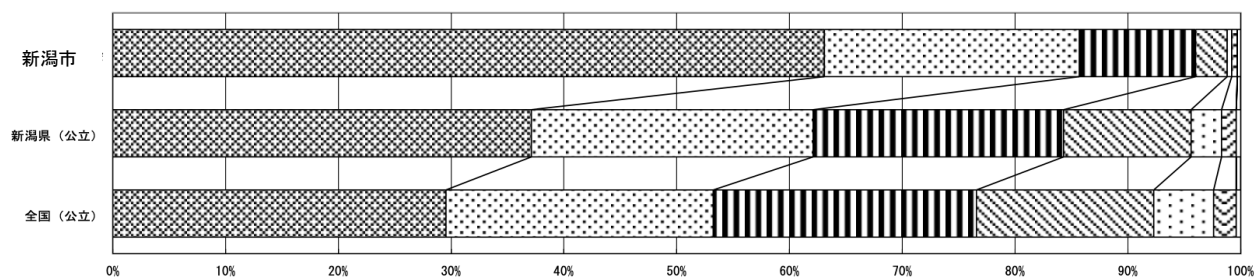
数値の上段は小学校、下段は中学校を表す

	新潟市	新潟県（公立）	全国（公立）
ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）	56.9 63.1	33.7 37.1	24.5 29.5
ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）	23.9 22.6	23.5 25.0	22.2 23.7
ほぼ毎日活用していると回答した割合の合算	80.8 85.7	57.2 62.1	46.7 53.2

② 小学校6年生の回答状況

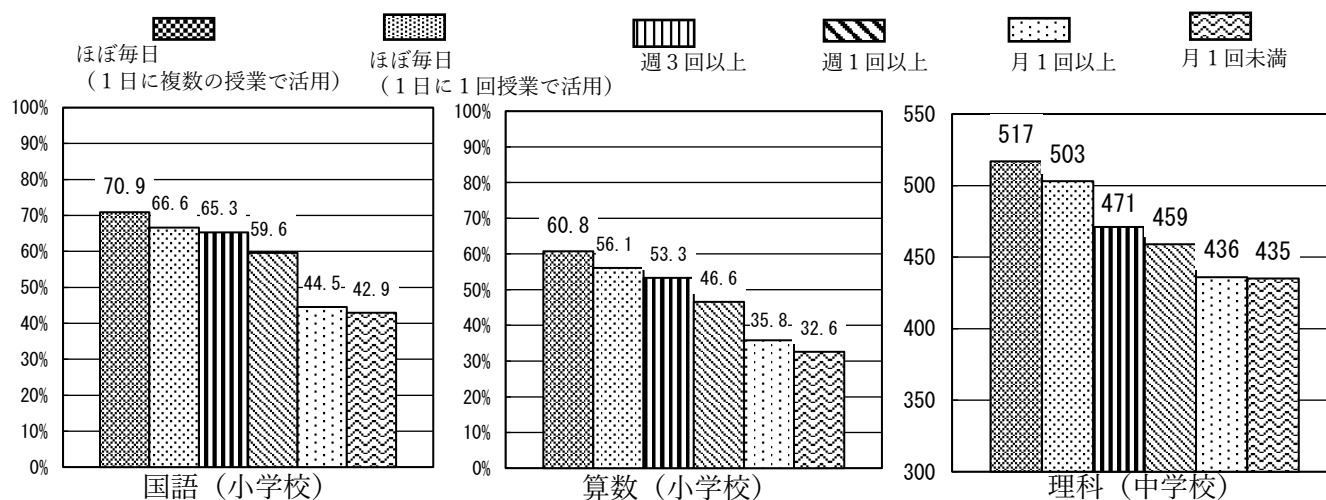


③ 中学校3年生の回答状況



④ 教科の正答率・IRTスコアとのクロス集計

小学校の縦軸は平均正答率を表す 中学校理科の縦軸は平均IRTスコアを表す



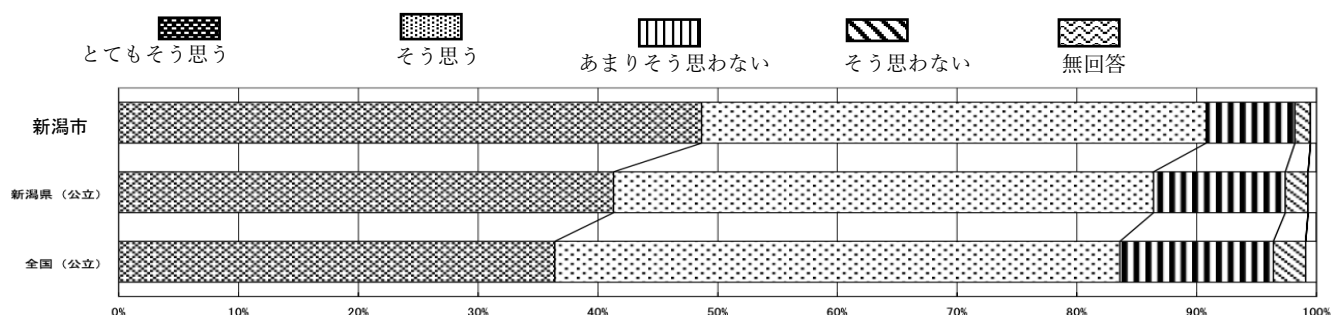
※小学校理科、中学校国語、数学についても同様の結果が見られた

⑤ 分析

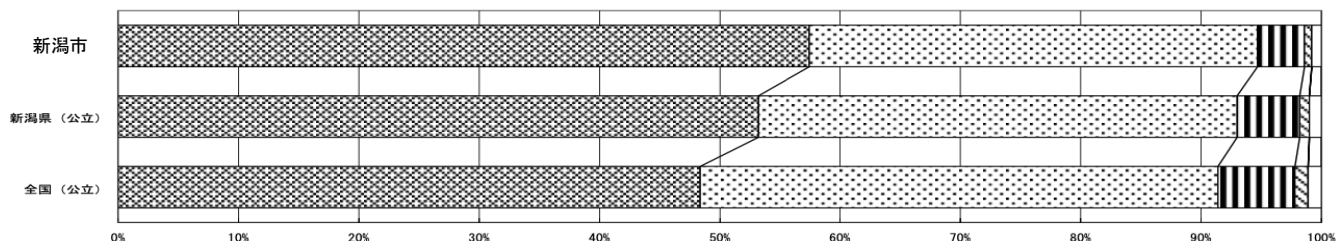
新潟市の児童生徒は、80%以上が1日に1回以上ICT機器を活用しており、県、全国に比べて頻度が非常に高い。さらに、一人一台端末の活用状況と教科の平均正答率・平均IRTスコアのクロス集計から、活用率が高いほど、平均正答率・IRTスコアが高いことが分かる。本市は、全国でも早い段階で全ての児童生徒に一人一台端末を配備し、GIGAスクール構想の環境整備を行ってきており、端末導入当初から、各校の担当者が情報共有できるシステムの構築、端末を生かした授業づくりの計画的な教員研修、リーディングDX校の取組及び、横展開を行ってきた。ICT機器の有効活用が学力として現れ始めたのではないかと考えられる。今後、質問同士のクロス集計を行い、より多面的に分析していく。

また、本年度から新たに質問事項となった以下の情報活用能力を問う質問についても、県・全国に比べると、肯定的な回答が多かった。

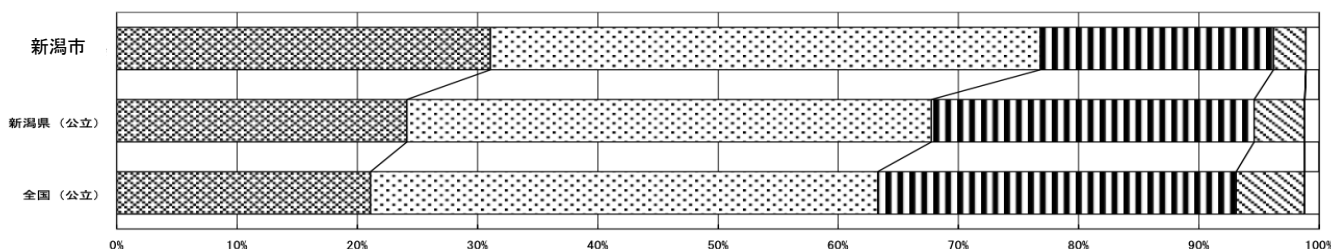
- あなたは、自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字・コメントを書くことなど）ができると思いますか。（中学校3年生）



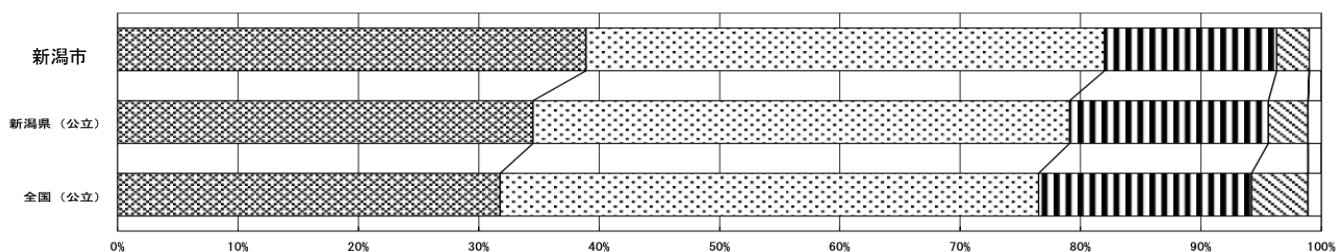
- あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか（小学校6年生）



- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか（中学校3年生）



- あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか（中学校3年生）

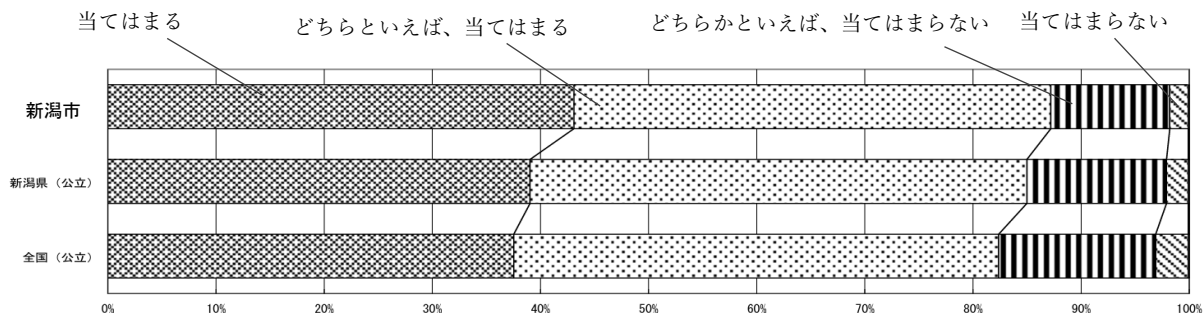


(2) 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」への回答状況

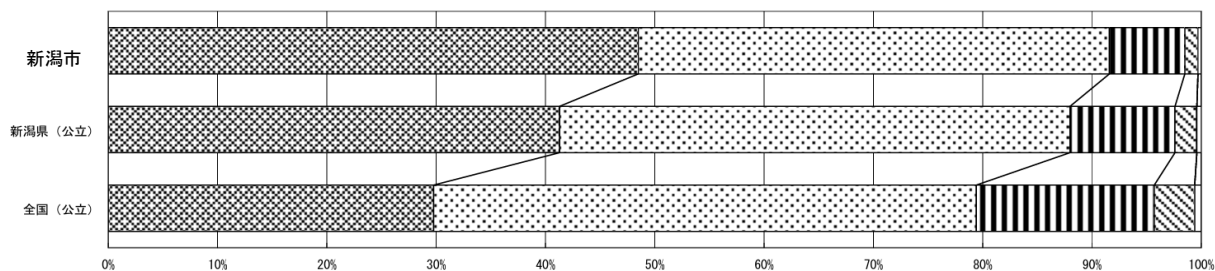
① 肯定的回答（当てはまる/どちらかといえば、当てはまる）の合算値

	新潟市	新潟県（公立）	全国（公立）
小学校	87.2（前年度比+1.3）	84.9	82.3
中学校	91.6（前年度比-0.8）	88	79.5

② 小学校6年生の回答状況

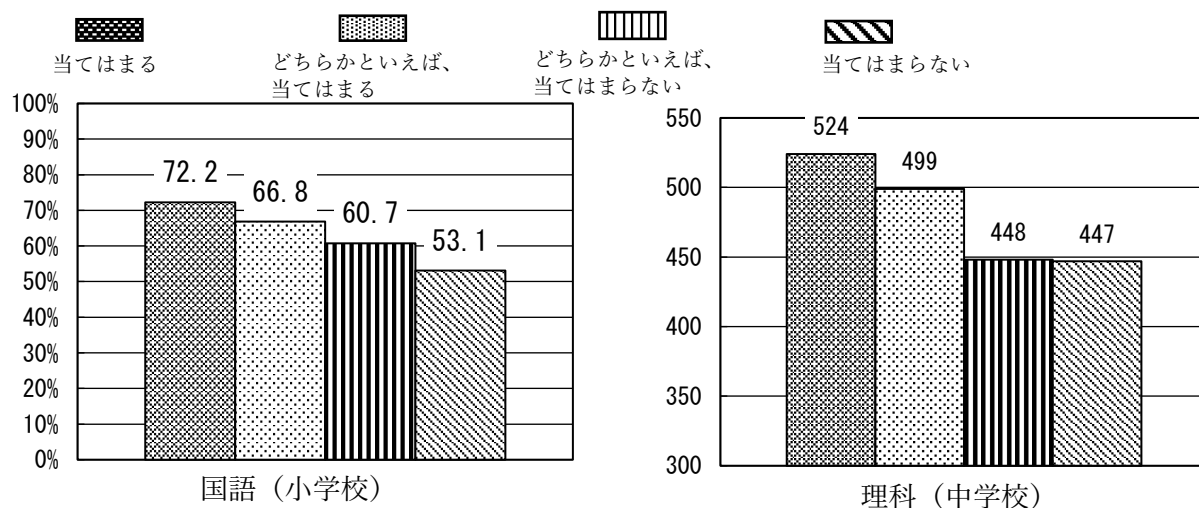


③ 中学校3年生の回答状況



④ 教科の正答率・IRT スコアとのクロス集計

小学校の縦軸は平均正答率を表す 中学校理科の縦軸は平均 IRT スコアを表す



※小学校算数、理科、中学校国語、数学も同様の結果が見られた

⑤ 分析

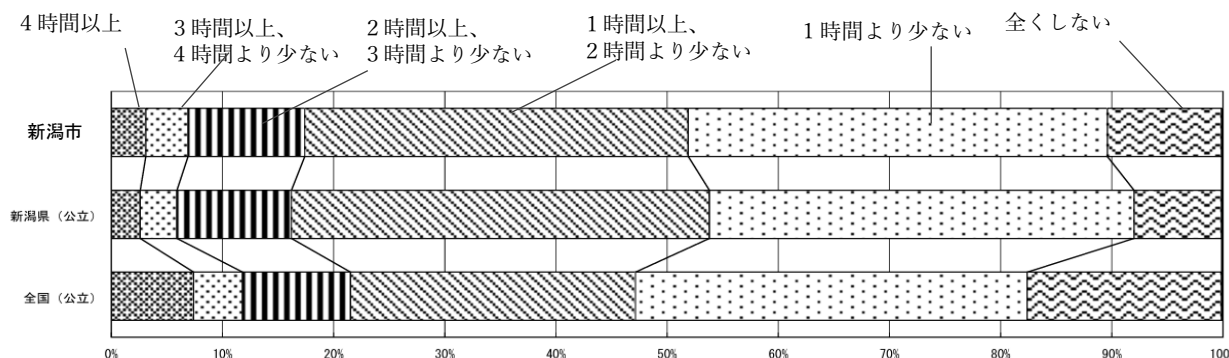
新潟市の児童生徒は、90%近くが、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。」に肯定的回答をしており、県、全国に比べて探究の過程で学習に取り組んでいる割合が高い。さらに、総合的な学習の時間の充実と平均正答率・平均IRTスコアのクロス集計から、よく取り組んでいるほど、平均正答率・IRTスコアが高いことが分かる。探究学習の推進は、市の教育振興基本計画にも位置付けられている事業であり、今後も充実を図っていく。

(3) 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して、学ぶ時間も含まれます。)」への回答状況

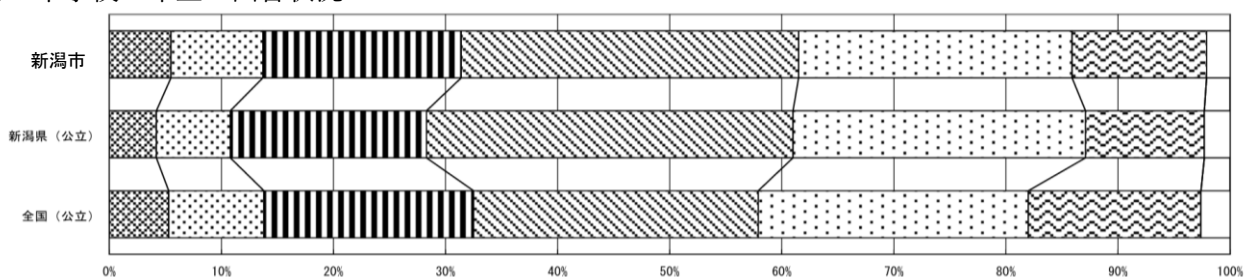
① 1時間以上勉強する割合

		休日	平日(参考)
小学校	1時間以上勉強する割合	51.9(前年度比-5.1)	57.7(-4.8)
中学校	1時間以上勉強する割合	61.5(前年度比-3.7)	58.5(-4.2)
	2時間以上勉強する割合	31.4(前年度比-3.3)	21.1(-1.1)

② 小学校6年生の回答状況

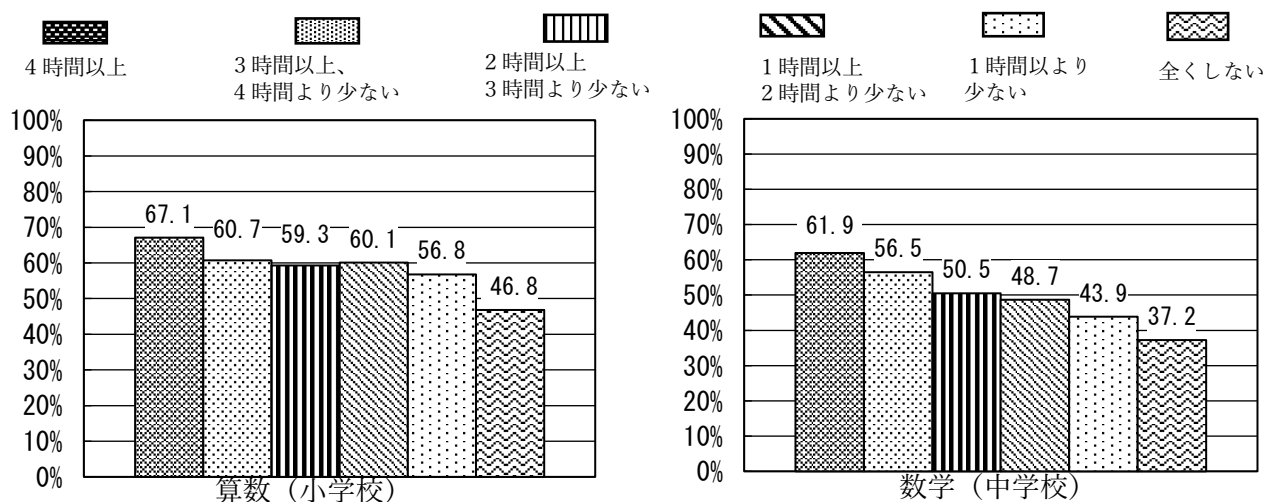


③ 中学校3年生の回答状況



④ 教科の正答率・IRTスコアとのクロス集計

縦軸は平均正答率を表す



※小学校国語、理科、中学校国語、理科も同様の結果が見られた

⑤ 分析

新潟市の児童生徒は、土曜日や日曜日など学校が休みの日、平日ともに1時間以上勉強する児童生徒の割合が減少している。家庭などで勉強する時間と教科の正答率の間には、特に算数・数学で相関関係がみられたことから、家庭などでの勉強時間を確保する取組が必要であると考えている。